

# 魅力だより

- ◆最上教育事務所「魅力ある学校づくり調査研究事業」通信第15号
- ◆令和2年3月11日（水）
- ◆最上教育事務所 指導課

## 年度末・年度始めに行う不登校対応を考える

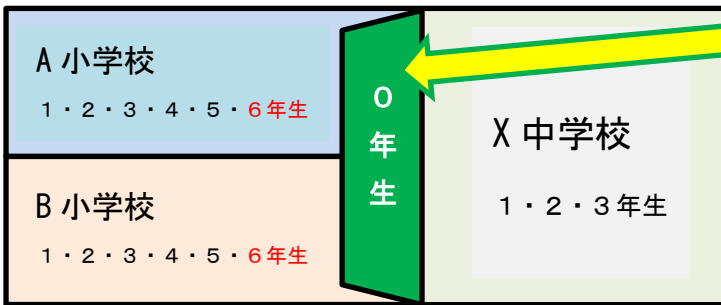


各学校や市町村教育委員会におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策のための学校の臨時休業等の対応について、丁寧にご対応いただいていることに感謝申し上げます。学校の臨時休業等に伴い、児童生徒の進級や進学等に係る不安が高まっていることが推察されます。これまで同様に、不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒への個別支援を引き続きお願いします。加えて、新年度のスタートに向けて、集団指導のあり方について共有することも重要なポイントになります。そこで、今回は特に心配が予想される現在6年生の中学校1年生進学時における不登校の未然防止の取組についてお知らせします。

## 小中の「のりしろ」をつくる

「魅力ある学校づくり調査研究事業」第4回調査研究委員会（令和2年2月22日）資料から一部抜粋・加工

### のりしろA（「中学校0年生」の取組）



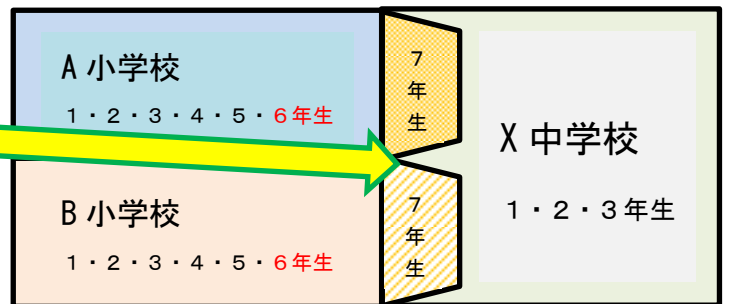
#### のりしろAとは？

- 基本的に「教師主導」で行える。
  - ねらいは、中学校生活への変化の予告や進学後の期待を高めることである。
  - 取組内容は中学校側が主導で行うが、場の設定は小学校側が関与する。
  - 12月から3月にかけて行うことを想定している。
- ※小学校が複数あっても、進学先の中学校は一つしかないため、のりしろは一つである。

#### のりしろBとは？

- 基本的に「教師主導」で行えない。なぜなら、これまで関係を築いてきた小学校の先生方がおらず、進学してまもないため中学校の先生方が十分に生徒の情報等を得ていない可能性があるから。
  - ねらいは、小学校時代の取組を継続することで、中学校進学後の不安をやわらげることである。
  - 小学校側が小学校卒業までに、中学校入学後に行える活動をしかけたり、中学校側に小学校時代に取り組んできたことの情報を提供したりする。場の設定は中学校側が行う。
  - 4月から7月にかけて行うことを想定している。
- ※小学校が複数ある場合、のりしろは小学校の数だけある。

### のりしろB（「小学校7年生」の取組）



「リセット」ではなく「リピート」を！  
小6のゴールを7月に！

## 「中1の新規不登校生徒抑制は

小中の先生方が手を組むことで乗り越えられる！





## のりしろ A (「中学校0年生」の取組) の具体例

- ・中学校入学説明会等において、中学校の先生方が英語等の授業を行うこと。
- ・中学校入学説明会等で6年生から募った質問等に対し、中学校1年生や生徒会役員等が回答したり、継続的にやりとりしたりすること。
- ・中学校入学前に部活動体験を行うこと。
- ・中学校で行われている授業スタイルや諸活動を前倒して体験すること。
- ・同じ中学校に進学する小学校の児童が集まり、自己紹介やレクリエーション等を行うこと。



ポイント 中学校入学時の激変(教科担任制、部活動等)に備えること!

## のりしろ B (「小学校7年生」の取組) の具体例



### ○小学校で行ってきた取組等を中学校1年生の学年団等が生かす場合

- ・各小学校で異なっていた家庭学習のルールや目標等を逆手に取り、中学校入学後に生徒たちに話し合わせながらルールをつくっていくこと。
- ・各小学校で年間を通じて行ってきた活動(帰りの会でのミニレクリエーション等)を中学校入学後も継続して行うこと。
- ・校内運動会において、学年種目を自分たちで決めさせたり、学年応援合戦を企画し内容を考えさせたりすること。

### ○小学校段階(卒業まで)において、中学校で取り組むことを事前に仕掛ける場合

- ・小学校時代のまとめ(年表)作成を中学校入学後も1学期終了まで継続して取り組むこと。
- ・中学校入学後に実施する出身小学校紹介のプレゼンテーションの内容等を考えること。
- ・中学校入学後に実施する学年レクリエーションの企画を各小学校単位で話し合い、方向性を決めておくこと。

### ○出身小学校時代に培った絆を生かす場合

- ・清掃班を出身小学校ごとに構成して取り組むこと。
- ・出身小学校ごとに集まり、小体連の応援メッセージや応援動画を撮影し、送る。
- ・出身小学校ごとに集まり、6年生時の担任の先生や児童等に近況報告の手紙等を書く。



ポイント 夏休みまでの激変を小学校時代に培った絆で乗り越えさせる!

ポイント 子どもの喜ぶ姿をイメージして、小中の先生方が手を組み、アイデアを出し合いながら取り組む!

今回の内容は、「小学校6年生から中学校1年生」の接続時における不登校の新規抑制を中心にお知らせしました。ぜひ、年度末に実施される小中学校の引継ぎ会等で話題にさせていただくようお願いいたします。また、この取組のコンセプトや手法等は、フロックが変わり不登校が出はじめやすい「小学校4年生から小学校5年生」にかけてや、中だるみになりがちな「中学校1年生から中学校2年生」等の接続時でも有効的と考えます。